

各地の取り組み 長崎県長崎市

子どもが健やかに育つ土壌を豊かにするために

長崎市こども部子育て支援課 増本 利恵

はじめに

私は市役所に勤めてから13年目の事務職の職員です。市役所に入ってから、老人福祉、市民課を経て、子育て支援課は今年で5年目です。最初はひとり親家庭の支援をメインに担当をしておりましたが、こどもの相談や虐待等の対応をする係に来てから3年目となります。私には子どももいないし、保健師などの専門職でもないので、わからないことばかり。「子育て」という言葉は私生活では全然縁がない、こんな私が相談に乗っているのかな?と思うことが多くありますし、日々の業務の中では誰のために仕事をしているのだろうと思うことも。周りの人に支えられながら日々業務をこなしている毎日です。

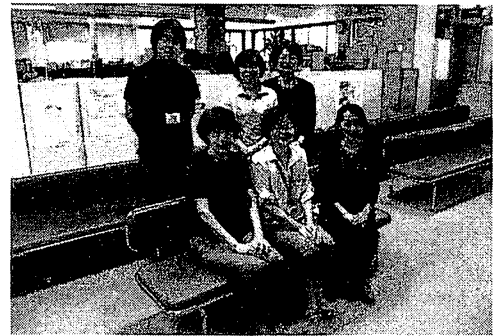
今の係に来てから思うことは「自分が子どものときはどうだったかな?」ということ。私の世代は、「いじめ」も「ひきこもり」も「不登校」も社会問題になり始めた世代であります。こんなに重くはなかったのでは?今は不登校の子って、どの学校にもいますよね?また、インターネットやラインなどのトラブルも聞くようになり、今の時代に子どもを産むって大変だなと感じることもあります。

自分が子どもの頃にどうやって育ったかは忘れっぽいもので全然覚えていませんが、母子間の愛着形成って大切なんだな〜と今の仕事をしていて感じます。また、子どもの最初の社会は家庭であり、その家庭で起こることが子どもにとっては全て。家庭環境は次の世代にも引き継がれていくものであり、それをどのように変えていくかということも一つの課題だと思います。

本市の現状と子育て支援

長崎市と聞いて皆様はどんなイメージを持ちますか?私はいろんな市町村の職員の方と交流する機会がありますが、長崎市に修学旅行で行ったことがある、「グラバー園」「ちゃんぼん」などが有名で、日本列島の西の端っこですが知名度はある方ではないでしょうか?海と山に囲まれた坂の町であります。人口は約44万人、65歳以上の高齢化率は約25%(全国平均よりちょい高め)、年間出生数は約3300人、うち第1子の数は約1500人、合計特殊出生率は1.3(H23)と全国平均よりちょっと低め、つまりご多分に漏れず少子高齢化の道をまっしぐらに突き進んでおります。

もちろん子育て施策にも力を入れており、市内には10か所の子育て支援センター、市内32か所各公民館等で月1回で開催しているお遊び教室などを実施。平成20年度からはノーバディーズ・パートナー・プログラム(NP)を、平成23年度



子育て支援課メンバー(前列真ん中 増本さん)

からしつけ・親子のコミュニケーションをテーマとしたコモンセンス・ペアレンティング(CSP)を実施しております。

私はNPのファシリテーターの資格は持っていませんが、事業実施の準備等に携わらせていただいています。先日、事業開始から5年経過したこともありNPの参加者に事後アンケートを取りました。少し手前味噌になりますが、その結果が思いのほか良く、「育児に気持ちの余裕ができ、あまりイライラしなくなった」や「子育てのことで話し合える友だちが増えた」などの感想もたくさん寄せられました。しかし、月齢が小さなお子さんのママが参加するには、エピソードが少なかったり、他の参加しているママたちと悩みが違ったり、話題についていけなかったり。NPの参加資格は思い切って1歳からにしてもいいのかな?とも考えていました。

B Pとの出会い

まず私がBPの存在を知ったのは、NPのファシリテーターから教えてもらったのがきっかけです。第1子ママを対象にしたBPというのができたらしいよというのは聞いていましたが、すぐには実行できず。市役所で何かを始めようとするには、予算の獲得からスタートして少なくとも半年以上の準備期間が必要となります。まあ、しばらくは私の心の片隅にBPはあっただけでした。タイミングが良かったと言うか、こども部の重点化方針の「子どもが健やかに育つ土壌を豊かにする」がちょうどBPの理念とマッチし、平成25年度にまずはBPファシリテーターを養成しようという試みとなったのです。

長崎市でも初めてママを対象に「にこにこ学級」「すくすく学級」という育児学級を実施していますが、新たに実施するBPファシリテーターは市民の方をお願いし、市民と協働して実施する事業としても新しい試みだと思います。

「親子の絆づくり」を大切にしているプログラム

私自身も実際のBPの様子を見たことがないので、その勉強から始め、上司や議会への説明をし、やっと予算を獲得。新年度になってから、実際のファシリテーターの公募に取りかかりました。KKIのホームページをじっくり見てもらえば、BPとはどんなものかわかってもらえると思いますが、限られた資料の中でBPをいかに上手く説明するか、何度も資料を書き直しました。今まで、子育て支援センターとは関わりはありましたが、市内の保育園や民生委員・主任児童委員に声をかけて、このような講座を実施するのは初めてで、定員割れをしないか心配をしておりました。しかし、嬉しいことに、無事定員割れもせず24名の受講者が集いました。

BPファシリテーター養成講座の実施

長崎市内で2日間BPファシリテーターの養成講座を実施しましたが、集まったメンバーは主に3タイプ。1つは子育て支援センターのスタッフ、1つは保育園の先生、1つは長崎市内で子育て支援をしている主任児童委員さんやボランティアさん。今までかわりのあった方もいましたが、大多数は初めて会う人ばかり。この養成講座の一番の財産は新しい人との出会いだったかも知れません。また、参加者の中にはNPのファシリテーター2名、NPの参加者3名もいて、子育て支援の文化が引き継がれているようで嬉しかったです。

BPファシリテーターの養成講座2日間に私もべったり張りつき、見学をし、やっとBPとはどんなものかわかり始めました。ファシリテーターの参加者の方もハードな2日間でしたが、ただの見学者の私も頭から湯気が出るくらい正直疲れしました。その分、学びも多かったと思います。

まず、目から鱗だったのは、そのまんまですが「親子の絆づくり」を大切にしていること。得てして、最近の子育て支援は子どもと親を離すレスパイト的な支援、してあげる支援が多くなりがちですが、BPでは考えて親にさせるという方針が新鮮に感じてしまいました。また、参加者の意見にも多く書かれていましたが、ファシリテーターとは黒子に徹すること。テキストを読んでわかってはいましたが、「言うのは易し、行うのは難し」という、どうしてもおせっかいな心が持ち上がってしまいそうで、参加者の皆さんは苦勞をされていたようです。また、私は子育て経験がないので、第4回のピエロバランスの時の「したいこと」「しなければならぬこと」のディスカッションの時の「美容室に行きたい」という声は生の声だな～と感じました。

参加者の声では「全部のセッションを一度見てみたい」というものが多かった気がしましたが、一度お手本を見てしまうと、お手本にとらわれすぎてケース・バイ・ケースの対応ができなくなってしまうところがあるのでは? とも感じました。

いろんなママたちが来るはずだから、そんなママたちに臨機応変に対応するのは大変だとは思いますが…。

今後の展望

2日間の養成講座を受けたからには、実際にBPを実施してもらいファシリテーターの資格まで必ず取ってもらおうと準備をしております。9月から来年2月まで、市内13か所で実施する計画を現在作成中。あとは広報を駆使して、必要としているママたちに届くようにしていきたいと思っています。本当に一生に一度しか受けることができない貴重なプログラムですから。現在、実際にママたちの相談にのっていて、「あ～、このママはBP向けだな～」と思うこともしばしばなので、早く実施したいですね。

長崎市のファシリテーターの方は、子育て支援センターのスタッフや保育士など他に仕事を抱えながらBPに協力をしてくださっているのです、少しでもスムーズに実施できるように準備を整えるのが私の主な仕事になると思います。

NPも実施して6年目になり、ずいぶん市民の方に浸透をしてきているようです。BPも市民の方に浸透し、一人で子育てをしているんじゃないと感じられるような社会に変わっていったらと思います。私もBPの参加者に早くなりたい! というのは余談ですが。

行政マンとしての立場では、やはりBPの効果を何も知らない人いかに説明できるかが力の見せ所でしょうか? 自分の力のなさをつくづく感じるポイントであります。限られた予算をBPの実施に回してもらうにはその力が不可欠でありますので、頑張りたいなと自分にプレッシャーをかけてしまいました。

9月からの実施に向けて、ファシリテーターの方も不安いっぱいであるようですが、私も不安いっぱいです。でも、ファシリテーターの皆さんと一緒に進めていくので、一人ではないというのは心強いです。今度はこの場で「やってよかった」という報告ができたらと思います。

最後に一つ課題提起を。父親をうまく子育てに巻き込む仕組みがどこかでできないか? NPやBPのテーマに「パパとの関係」というのは出てきますし、両親学級や父子手帳など育メン育成という視点は徐々に出てきているところです。しかし、まだまだ不足していると感じてしまいます。男性の育児参加が難しい日本の社会が悪いのか? そもそも男性はNP・BPのようなトーク中心のプログラムに向いているのか? 男性心理が分からない私には謎は深まるばかりで、構想もぼんやりしたままですが、パパ向けの何か



ができないかな? と思います。こんなことが上手いってよということがあれば、ぜひ教えてください!